

営農のしおり

水田農業政策の確立を 県選出国會議員と各市町長に訴え

JAグループ山形は9月11日、山形市民会館で「水田農業政策の確立に向けた山形県JA代表者要請集会」を開き、県内から約1000人が集まり、出席した県選出国會議員6人に、平成30年産以降の米政策見直しで、農業再生協議会の十分な機能発揮に向けた環境整備などを政府に強く働き掛けるように求めました。当JA役職員や生産者約80人が出席しました。

JA山形中央会の長澤豊会長は「生産現場には不安と動揺が広がっている。主食である米の生産を競争原理に委ねることなく、行政の積極的な関与と指導の下、全ての産地・生産者などによるオール日本・オール山形・オール市町村で需給調整に取り組む必要がある」と強調しました。

阿部茂昭副会長が▽再生協議会が機能を発揮できるような環境整備、▽需要に応じた生産に取り組むための全国組織の設置を早急に進めること、▽水田活用の直接支払交付金を恒久的な措置とし、地域の裁量による活用を可能にすること、▽米の直接支払交付金(7,500円/10a)が廃止されるなかで、その財源を需要に応じた生産と、そのことに取り組む生産者の所得向上につながるよう、水田農業政策の総合的な充実・強化に活用することなど、7項目を政府へ要請しました。

また、市町村に対しても一斉に要請運動を展開しており、阿部組合長は9月12日、JAそでうらの五十嵐風弥組合長

とともに酒田市を訪れ丸山至市長へ、21日には遊佐町の時田博機町長に要請を行いました。



▲政府への要請を読み上げた阿部副会長



▲丸山市長(中)へ要請書を手渡す阿部組合長(左)と五十嵐組合長



▲時田町長(右)へ要請書を手渡しました

● **播種**
涼しい条件で行いましょう。
間引きによる断根防止と省力化のためシードテープに1粒播きで株間は5cm〜7cmとします。
シードテープはしっかりと土に密着させ、1〜2cm位覆土後に十分

● **播種**
涼しい条件で行いましょう。
間引きによる断根防止と省力化のためシードテープに1粒播きで株間は5cm〜7cmとします。
シードテープはしっかりと土に密着させ、1〜2cm位覆土後に十分

夏野菜が一段落すると、秋から冬にかけて軟弱野菜の播種が始まります。一般的に、ハウレンソウは盛夏時期以外の栽培が可能です。本格的に寒くなる前に播種するようにします。

ハウレンソウは生育適温が10〜20℃で光合成が盛んに行われ、成長速度が良好な温度帯は18〜20℃とされています。発芽適温は15〜20℃とされ、最低発芽温度は4℃とかなり低い温度でも発芽しますが、不ぞろいになったり生育にバラツキが生じたりします。秋の栽培でも50〜60日程度で収穫が可能です。

園芸だより これからの ハウレンソウ栽培



● **灌水**
灌水は、発芽まで乾かさなないように管理します。

● **灌水**
灌水は早朝〜午前中に行い、夕方はしないようにしましょう。

● **灌水**
灌水の目安は、播種前〜播種直後は十分に灌水し、発芽〜本葉2枚までは少なめに、本葉4葉からはやや多めに灌水し、収穫前は少なめに行いましょう。

● **収穫**
収穫は涼しい早朝に収穫し、規格に合わせて出荷します。

● **収穫**
作付け前に土壌分析を行い、適切な石灰資材や肥料の投入量を決めましょう。



遊佐園芸センター 土屋 拓